

「今を生きる」 (校長便り R2 NO. 3)

いよいよ本格始動！

一昨日から雨が断続的に降り続くなか、近畿地方も梅雨入りというニュースが流れてきました。気が滅入る季節の到来ではありますが、今年は例年と違い、晴れ晴れとした気持ちで迎えることができます。それは、現在の分散登校が終了し、6月15日から学校が通常通り再開できるからです。部活動等の制限はしばらく続きますが、長かった休業期間を経てようやく生徒全員が登校します。今後も新型コロナウイルス感染拡大予防対策を十分行ったうえで、戻ってきつつある日常の有難さをかみしめながら日々の教育活動を大切にしていきたいと思えます。

最近の話題をいくつか紹介します。まず、本校では臨時休業の間、ICT活用に係る新たな取組に挑戦しました。例えば、授業動画の配信や教職員研修の実施などです。研修では、以前から授業で活用していた英語科教員が講師役となり、「カフート」というゲーム形式の学習ソフトの使い方について学びました（5月22日付け神戸新聞に掲載）。今後は他教科へも活用を広げていく予定です。一方、臨時休業中に緊急学習支援対策として民間の学習支援サービスが多くの県立学校に導入されましたが、本校では数年前からすでに「スタディサプリ」を学校採用していたこともあり、4月当初から1学年も含めたほぼすべての生徒が有効活用しています。その他プリント等の課題も併用しながら、臨時休業中、生徒たちは自律的に学びを深めることができました。

また、本校では、「ゆめいくプロジェクト」と名付けた課題解決型の学びに力点を置いています。一昨日も、1年生に探究学習の具体的なイメージを持ってもらうため、2年生が昨年の活動内容をプレゼンテーション形式で1年生に向けて発表しました（6月11日付け神戸新聞に掲載）。このように学年横断的な学びができるのも本校の魅力の一つです。校長便り NO. 1でも触れましたが、本校は昨年度から3年間、文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」推進校の採択を受けており、探究学習についても地元の多くの団体・企業（コンソーシアム）にご支援いただきながら活発に活動しています。コンソーシアム構成団体の一つに、オオサンショウウオの調査・研究を行うNPO法人日本ハンザキ研究所があります。昨年度も本校は研究所主催の夜間観察会やこども園への普及啓発などの活動を行ってきました。本校のすぐそばを流れる市川には国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが多く生息しています。これも自然豊かな生野ならではの学びです。



△ 「ゆめいくプロジェクト」授業の様子



△ 生野高校横の市川に設置されているオオサンショウウオのためのスロープ

令和2年6月12日

兵庫県立生野高等学校長 福田 孝善

